

萩市と下田市は姉妹都市提携50周年

～山口県萩市から担当者が届けます！～

問合せ先：企画課秘書広報係（河内庁舎2階） ☎22212

萩市と吉田松陰先生

下田市に「吉田松陰寓居処」や「踏海の朝」など、吉田松陰にまつわる史跡があるように、萩市にも多くの関連スポットが存在します。萩市では今なお多くの市民が吉田松陰を「松陰先生」と敬称をもって呼び、その精神を尊び、親しみを込めて接しています。

【スポット1】 松下村塾

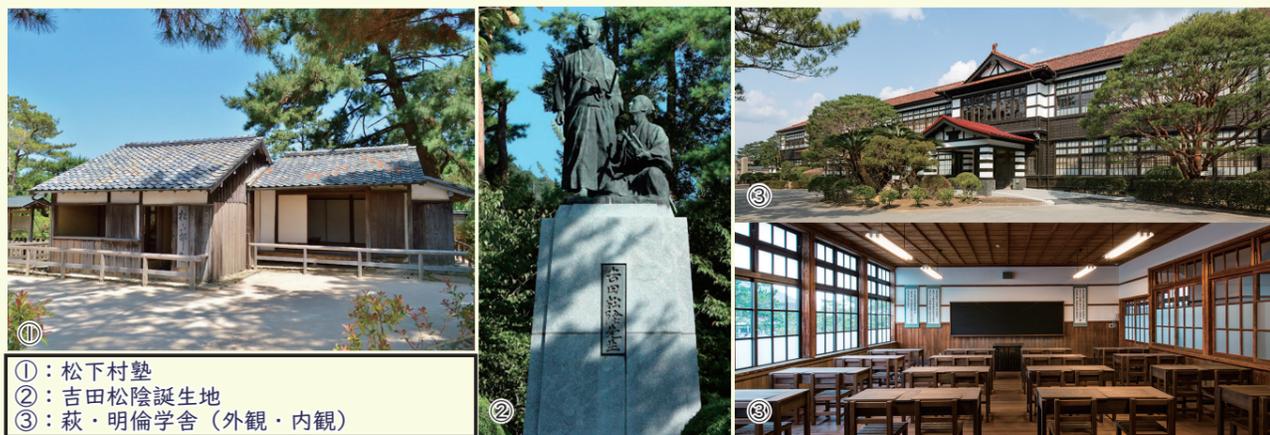
嘉永7年（1854年）、下田に来航したアメリカ艦隊に密航を願い出るも叶わず、投獄された松陰先生は、その後萩に送還されました。そこで自ら主宰したのが、身分に関係なく誰もが学べる私塾「松下村塾」です。この塾からは、高杉晋作や伊藤博文をはじめとする幕末維新を代表する多くの人材が輩出されました。現在、松下村塾の建物は世界文化遺産に登録されており、当時の学びと志を今に伝えています。

【スポット2】 吉田松陰誕生地

松陰先生が生まれた場所は、萩市内の小高い山の中腹に位置し、当時の宅地跡が静かに残されています。近くには、下田での歴史的な出来事を象徴する、松陰先生と従者・金子重輔の銅像が建立されています。また、この地からは萩市街地を一望できる絶景が広がり、歴史と自然の魅力を同時に味わうことができます。

【スポット3】 「松陰先生のことば」朗唱

萩市立明倫小学校では、吉田松陰先生が残した多くの格言を児童が朝礼時に朗唱する伝統があります。1年生から6年生まで、学期ごとに異なる格言を学び、卒業時には18の言葉が子どもたちの心に刻まれます。また、市内の新たな観光拠点「萩・明倫学舎」では、毎月第2・第4土曜日に、観光客向けの朗唱教室を開催しています。松陰先生の志に触れるひとときを、萩観光の締めくくりとしてぜひご体験ください。



①：松下村塾
②：吉田松陰誕生地
③：萩・明倫学舎（外観・内観）

新庁舎整備事業

問合せ先 企画課庁舎建設係
（河内庁舎3階） ☎22212

現場見学会を実施しました!!

新庁舎は、令和8年5月の全体移転に向けて、整備を進めています。

7月8日に、稲生沢小学校3年生を対象に総合学習の時間をお借りして現場見学会を行いました。小学生は庁舎が出来上がっていく様子を見て興味津々でした!!

秋には、一般の方向けにも現場見学会を企画中ですので、お楽しみに!!



新庁舎全体開庁まで

あと **279** 日

「終戦八十周年 下田の戦争展」を開催します

本年は終戦八十周年の節目の年です。戦争の悲惨な記憶を風化させず平和祈念の思いを後世につないでいくため、終戦五十周年記念誌編集委員が中心となって戦争展を開催します。

戦時中の人々の生活の営みが分かる思い出の品を市民の皆様から収集し展示しますので、皆様お誘い合わせの上ご来場ください。

日時
8月6日～16日
各日9時半～16時
※最終日は正午まで

会場
道の駅開国下田みなと2階 特別展示室

問合せ先
福祉事務所社会福祉係
（東本郷庁舎窓口） ☎22216



「終戦八十周年 下田の戦争展」

実行委員 高橋 泰嗣
よせて

下田市は、今から三十年前の平成七年が終戦五十周年の節目であることから、同年八月に「平和のための戦争展」（以下「戦争展」）を開催しました。戦争の悲惨さ、平和の尊さを後世に伝えることを目的に、多くの市民の皆様のご協力により、数多くの貴重な文書やさまざまな遺品、写真等を展示できました。

令和七年は、終戦八十周年の年になります。世界の各地では、今なお戦争や紛争を起し、続け、多くの尊い命が奪われています。亡くなった人を悼む人、被災し担架で運ばれる人、泣き叫ぶ子供、破壊され尽くされた街の映像や報道に、日々心が痛みます。

このたび、終戦八十周年事業の一つ「終戦八十周年 下田の戦争展」を企画し、展示の計画を進めていきました。父は、旧陸軍軍人として従軍しました。その時携帯した「奉公袋」があります。その中には履歴書、写真、遺髪、勲章、記章、衛生法及救急法抜萃等が入っており、それも展示する予定です。

来場される皆様、戦争の足跡を辿り、遺品等の展示を通じて戦争の悲惨さ、平和の尊さを実感し、後世に伝える機会になることを願っています。

下田市の皆様、こんにちは！地域おこし協力隊・情報発信部門の鈴木和隆です。

8月の下田は、観光のお客さままでいっしょにぎやか。地元の方にもおなじみですが、よそから来た身としては、この賑わいがあるんだか嬉しく感じます。先日、東京へ出張に行ったときのこと。覚悟はしていたものの、あまりの暑さとムシムシ感にぐったり。晴れているのに空気が重い…そんな感覚でした。

出張から下田の生活に戻ってみると、どこどなく気温も低いと感じたり、乾いた心地の良い風が通り抜けたらして、「あれ、こっちの方が涼しい?」と驚きました。

気温を調べてみると、東京より2～3度低い。下田は東京よりも南に位置し、海に面していることから「南国のように暑い」と思っていたのですが、実は「カラッと爽やかな夏なんです。都会よりも涼しく、しかも南国のような気分を味わえるのは、下田の魅力だと思います。

まだまだ暑い日は続きそうですが、こまめな水分補給と休憩を忘れず、下田らしい夏を元気に過ごしましょう!

下田市の皆様、こんにちは！地域おこし協力隊・観光誘客促進部門の高橋真希です。

観光協会への海水浴場のお問い合わせも増え、下田の夏本番がまだまだ続いています。初夏のあじさい祭をきっかけに、市内で多くの外国人観光客を見かけるようになりました。

ビーチで外国人の姿を見ると、日本人とのビーチでの過ごし方に違いを感じることもあります。日本人は、どちらかというと、海水浴やマリンスポーツなど、何かをする目的があつてビーチに行くことが多いと思います。やるかが決まっているので、それが終わると、すぐに帰ってしまう印象です。でも、外国人は海に入る時間ももちろんありますが、砂浜で本を読んだり、日焼けをしながら昼寝をしたり、のんびり、ゆったりした時間を過ごす方も多く見えます。ビーチがもっと身近にあるイメージです。茨城県・大洗町は、下田と同じくプロサーファーの大会会場にもなるビーチのある町ですが、ビーチに、本棚を設置し、その場で読める本の貸し出す「砂浜図書館」というイベントをやっていたそうです。下田市は、市内各所で子ども図書館を開催していたりと、本への取り組みにも熱心なイメージです。海水浴シーズンを以外でも、砂浜でのんびりとくつろぎながら読書に親しむのも、素敵かもしれませんね。